

庄内町に先端設計拠点

建築設計会社「ブレンスタッフ」(鶴岡市、仲川昌夫会長)は来年4月、建築物の設計などを3D空間で行うシステム「ビルディングインフォメーションモデリング」(BIM)を扱う「庄内BIMセンター」(仮称)を庄内町に設置する。同社によると、BIMを扱う県内事業所は珍しいという。業務効率化や顧客サービスの向上につながる最新の建築設計技術の提案を通して業務拡大を図り、地域の雇用創出につなげたい考えだ。



BIMを活用し、建物の構造などを確かめる社員たち。庄内町・ブレンスタッフ庄内町事務所

BIMはコンピューター上で立体的に建物を再現し、建築物のデータを一元的に管理するシステム。建物のデータの一部を変更した場合、柱や壁といった建築部材の規格も自動的に修正されるため、業務効率化が図られる。さらに設計案のイメージを立体的に確認でき、依頼主や工事関係者の間で円滑な意思疎通につながる」と期待されている。

同センターは、ブレンスタッフの庄内町事務所がある町新産業創造館「クラッセ」オフィス棟の貸しスペースを利

業務拡大へ来春「BIMセンター」

用する計画。同町のまち・ひと・しごと創生総合戦略で位置付けられた先端的建築設計拠点化事業を受託し、国からの交付金を活用する。

現在は東京都内の大手設計会社に社員を派遣し、BIMを使いこなす人材を育成している。2015年度末までに3人の技術者を雇用し、18年度までには段階的に計43人の新規雇用を計画している。仲川会長は「BIMの拠点化を進め、建築技術の先端地を形成することで技術者の受け皿をつくりたい」と語る。

一方、庄内町では先端的な技術の集積が進むことで安定的な職業を確保、技術者のUIJTターンや地域内での雇用拡大を期待する。同町商工観光課の担当者は「民間企業の創意と工夫を活用することで地域活性化につなげていきたい」と話している。

国交付金活用し雇用創出